Weekly Report

Rotary 東京八王子西 ロータリークラブ

●2024-25 年度 国際ロータリー テーマ
ロータリーのマジック
RI 会長 ステファニー A. アーチック

2024-25 No.15 令和７年４月18日

●会長標語 ―― 会長 山口 覚 ―― 温故知新そして進化!

今週のプログラム		次回のプログラム	
●第 2814 回（4/18） ●会場 京王プラザホテルハ王子	＊卓話：法政大学名誉教授　馬場憲一様 テーマ「多摩東京府移管 130 年 ―八王子の歩み」	●第 2815 回（4/25） ●会場 三島方面	＊日帰り旅行（移動例会）

イニシエーションスピーチ
Initiation Speech

粕谷 良会員
Kasuya Ryo
粕谷 良
葬祭業
株式会社セレモア 八王子本社
社長
2024年4月入会　親睦・家族委員会

2025年4月4日（金）

はじめに

皆様こんにちは。私は、株式会社セレモアの粕谷良と申します。当社では私で三人目の入会となり、東京八王子西ロータリークラブにお世話になっております。直前では、明利さんが会員として活動しておりましたが、昨年の一月頃、会社を七十八歳という年齢で勇退をされました。皆様もご存知かとは存じますが、明利さんは、元警視庁で最後に中野警察署長を経て、当社に入社しました。明利さんもそうですが、警視庁は六十歳で定年、その後は、第二の人生で再就職をされる方が殆どです。その再就職をされた会社も、六十五歳から七十歳で退任されるのが一般的ですが、明利さんは七十八歳まで弊社で勤められました。『生き字引』の方で、私は年齢的にも、精神的にもまだまだ経験不足で、会社で私が暴れたりはしませんが、吠えそうになった時のお目付け役、また明利さんが培った経験で、社員への指導や接し方など、さまざまな点で勉強をさせていただきました。ここまで、明利さんのことばかりでしたが、本題に入らせていただきます。

幼少期

私は、昭和五十六年九月五日生まれで、現在四十三歳となります。私が現在住んでいる町は、西寺方町です。私の家は、元々小金井市で養鶏場を営んでおりましたが、その土地が手狭になったと言う理由から、昭和三十六年に現在の西寺方町に移って参りました。その当時の周囲は、十八軒程度しか家が無く、あまりにも小金井とは違う環境から祖父は心配し、父は地元の恩方小学校には通わず、越境通学で市内の第一小学校、第五中学校に通っておりました。私の祖父は、小金井市から養鶏場をするために引っ越して参りましたが、すぐには養鶏をせず、粕谷園というぶどう園を営み始めました。当時は、観光客など盛んだったそうですが、ぶどうが多く収穫できる山梨県と違い、八王子の土地には合わなかったそうで、約三年で辞め、当時は『卵』が貴重だった事もあり、やはり養鶏場に戻したそうです。その後は、鶏が何万羽といますので、毎日鶏が死んでしまう為、その鶏を犬に食べさせブリーダーをしてみたり、うずらの卵等、色々な商売をして参りましたが、現在父は、建築資材の製造業を営んでおります。祖父、父は非常にアクティビティに富んでおり、私は幼少期から多くの習い事をさせられました。五歳から剣道・スキーを始め、書道、学習塾、英会話などをしておりましたが、全く意味が無かったのは学習塾と英会話でした。剣道と書道は、夢中になる事ができました。幼少期の時は、当時でも珍しい『竹胴』を身に着けており、試合に負けると悔しさから必ず泣いておりましたが、祖父は『竹胴良之助♪』と激励を飛ばしてくれていました。書道も高校生まで習っていました。今でも字を書くことは好きな方です。

中学生活

地元の恩方中学校に入学し、中学では剣道一本の生活でした。恩方中学校はご存知のように、ヘルメットに自転車、やんちゃな学生が多かったですが、私は真面目に、朝五時過ぎには起床し、五時五十分には家を出て、六時二十分には学校到着、道着に着替え、六時三十分から朝稽古、放課後は、毎日十六時三十分まで、その後は学習塾で二十一時まで宿題をして、といった日々を三年間続けました。夏の合宿では血尿が出るほど稽古をしました。今思い出しますと『良くやったもんだ』、と感じます。おかげで、その当時、市内の中学では良い成績を残すことができ、東京都の大会、関東大会まで出る事ができました。八王子市民大会では、私は毎回優勝から三位まで入ることができ、新聞にも掲載されました。剣道部顧問の先生とは今でもお付合いをしておりますが、その時は辛いことば

かりでしたが、今思いますと『続けることの大切さ・精神力』を磨いていただき、今でもちょっとやそっとも難なく役にたっている気がします。

高校生活から専門学校

中学生活では、剣道一筋で、勉強もろくにしませんでした。八王子実践高校に入学し、流石にもう剣道はしたくないと思い、せめて高校生活では勉強し、推薦で大学まで行く決意をしました。勉強の傍ら、アルバイトの経験もしながら、高校生活は充実した日々でした。その様な中、私の今後の進路について将来どの様な仕事に就きたいか考えておりました。私の家は、祖父の時代から会社をしておりますが、父からは『風が吹けば吹っ飛んでしまう会社なので、自分の好きな仕事を見つけなさい』、と言われておりました。父の何気ない会話の中で、祖父は葬儀屋になりたかったと聞きました。私の祖父は、戦争が激しかった、パプアニューギニアで通信兵として出向いておりました。昭和二十年終戦後、『やっと日本に帰れる』と思ったそうですが、日本に病原菌などを持ち込まない為に、現地で検便検査をしたそうです。面倒だと思った祖父は、『お前の糞を出しとけ』と部下に指示したそうですが、見事に検査に引っ掛かり日本に帰れなくなったそうです。合格した日本兵は先に船で日本に帰ったそうですが、その途中で何と沈没をしてしまい、全員が死亡してしまったそうです。人生と言うのは分からないものです。祖父は良く『人の糞で助かった』と言っておりましたが、もしそれが真っ当なことをしていたら、父も私もこの世にはいません。そんな経験をした祖父には、戦友で本当に仲が良かった僧侶がいました。その方は、静岡県伊東市のお寺の住職でしたが、当時、伊東市には葬儀社が一軒もなく、その方のお誘いで葬儀屋になろうと思ったそうです。日本に帰り、葬儀屋に必要な祭壇や備品など揃え始めた頃、親戚中から大反対があったそうです。昔は葬儀屋のイメージが悪く、士農工商と言ったように身分制度がまだ気にされていた時代だったのかも知れません。しかし、その様な話しを父から聞き、今後、高齢化となるこれからの時代、絶対に避けられない仕事、世の中に必要な仕事と思い、葬儀屋になりたいと思い始めました。また、私は幼いころから『とっちゃん坊や』と言われており、日本の歴史や神社仏閣などが好きで、葬儀はその歴史・文化に繋がり、私の好きな事と合致しました。葬儀屋に繋げられる大学は無いかと探した所、僧侶が行く仏教系の大学しか無く、宗教家になる訳でもないので、大学進学を止め、就職をしようと思いました。高校の担任は、私が進学を止める事に驚いていましたが、その理由を話し、就職担当の先生も協力的でした。その先生はたまたま僧侶だったという事もあり、葬儀屋には精通している方でした。規模が大きく、経験豊富な葬儀社はセレモアつくばだと思い、早速電話、手紙などで思いを伝えましたが、結果ダメでした。理由は『若すぎる、お亡くなりになった方、また喪主になる方、ご遺族までも貴方より年上、葬儀社と言う仕事は、ある程度人生経験を積んで、人の気持ちが分かる方でないと対応が難しい』との回答でした。それは納得できる回答でした。大学も蹴り、就職もダメになってしまった私は、何とかせねばならんと思い、必死で色々と探していた所、お葬式の専門学校が平塚市に出来ると聞きつけ、直ぐに入学願書を出し、入学をしました。私の自宅から毎日バス・電車で二時間半かけて平塚まで通い、一年の時はブライダルとフューネラルを学び、二年の時はフューネラル一本で、現場経験もしながら学びました。ちなみに私の妻は、この専門学校の同級生で、現在もブライダル関係の仕事に従事しております。

二年間、葬儀の勉強をしっかりとして、いざ就職活動の際、改めてセレモアつくばに挑戦しようと思いました。一度、十八歳で挑戦しましたが、二十歳になって、しかも専門学校まで行ったのだから大丈夫、と思っておりました。改めて、セレモアつくばの総務・人事に応募しましたが、『若すぎる』と断られてしまいました。私はこの会社一本でしか考えていなかったので必死でした。私の思いを手紙にしたため、会社に二十通近く送りましたが、取り合ってくれませんでした。葬儀業界では著名な『碑文谷創さん』と言う方が私の通っていた専門学校の講師でいらっしゃり、その先生にもお願いしたり、あの手この手を使って、ようやく当時の社長にお会いできる事にこぎつけられました。いざ面接の時、専門学校の講師も同席していただき、社長に拝謁いたしました。兎に角『怖い・厳しそう』が第一印象で、二十歳の私には耐えがたい物がありましたが、自分が葬儀屋に就職したい思いを伝えました。しかし、当時の社長は『今のままではダメだ。何故セレモアつくばが良いのか他の葬儀社を見て来い』と言う答えでした。私はがっかりしましたが、ここで諦めたら二年間頑張って通った専門学校が水の泡、他の葬儀社の就職は、選択肢に全くありませんでした。まさか、他の葬儀社に伺うのに『セレモアつくばに入社したいから、お宅の会社を見学させて頂きたい』とは当然言えません。通っている専門学は葬儀業界では有名でしたので、『卒業論文を書くため、取材させて頂きたい』を口実として、八王子市内の老舗の葬儀社から、比較的規模の大きい葬儀社を何社かピックアップをして、直接その葬儀屋の社長や担当者と面談をさせて頂きました。そこで気づいた事は裏方でした。葬儀の現場では、例えばお焼香をするための香炉がありますが、お焼香をした後の香炉は、お香や炭が残っており汚れています。また現場に行く際は、大きな物で言えば祭壇、受付などで使用するテーブル、おリン、木魚などがありますが、細かいお線香や蝋燭、マッチ、受付の帳面、ペンなど一件の葬儀で準備をする備品は非常に多くあります。それらの備品が、人によって全て確認と管理がされており、一件のお葬儀を執行するのに、何人もの人が裏方で動いている事がわかりました。お客様の満足度を高めるために、葬儀を執行する担当者は、お客様に集中できる会社だという事を知りました。それらの事をレポートにしたため、改めて当時の社長に面接をして頂き、

やっとの思いで入社を許可して頂きました。本当に『ありがたい』と言う気持ちで一杯でした。

セレモア入社して

私は今から二十三年前、二十歳でセレモアに入社しました。その当時を思い出しますと、一番年の近い先輩で二十六歳、やはり私のような若い社員は居ませんでした。入社時は、職人気質の先輩方が多く、年が六つ上のその先輩が、良く私の事を守ってくれました。また、お葬式の専門学校を出た若い奴が、セレモアに入社すると期待を持たれてしまい、そのプレッシャーもありましたが、当時の社長は、私の事をセレモア最年少で、ある程度の役職まで引っ張り上げてくれました。私たちの業界は、古くからの歴史があり、日本の文化だと思っております。私が入社した二十三年前は、お葬式は自宅で行う事が多く、近所の方々がお手伝いに入り、煮炊きをした物をお通夜に振舞っていました。また、逆さになった臼に座ったり(*)、精進落としの事を八王子では『壇払い』と言ったりと、其々の地域の習わしがありました。昨今、葬儀の簡略化が進み、一日葬や直葬などがありますが、こう言った葬儀の文化を壊したのも、葬儀社だと思っています。今や八王子市内では、七十社ほどの葬儀社があると言われており、安かろう、悪かろうで葬儀の意味を知らない葬儀社が増え続けています。世間があまりにも早いスピードで変化していますが、私は、お亡くなりになった方とご家族が、しっかりと向き合える時間を作るのが葬儀社の役割だと思っています。

終わりに

私は現在四十三歳、葬祭経験で言えば専門学校と会社経験を合わせて、二十五年となりました。『四十、五十は洟垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えに来たら、百まで待って追い返せ』と渋沢栄一さんが言ったそうです。明治期の男子の平均寿命は、四十三歳だったそうですが、渋沢栄一さんは九十一歳で亡くなり、その二倍も生きたとてつもなくエネルギッシュな方だった事が想像付きます。それを考えると私はまだ、赤ちゃんなみたいなものですが、色々な経験を重ねて、これからも頑張って参りたいと思います。

本日は、ご清聴ありがとうございました。

(*)弔問客がまず逆さの臼に座ってから家に上がるという葬儀のしきたり。

例会報告

第2812回●2025・4・4（金）

◇**司会**　井上知巳会場監督補佐

◇**開会点鐘**　山口覚会長

◇**君が代斉唱**

◇**Rソング**　奉仕の理想
ソングリーダー：松村光会員

◇**食事と交歓**　百万ドルの食事

◇**出席報告**
角田昌己出席委員長

出席報告／角田出席委員長

会員118名中79名出席。出席率70・54％。前々回3月21日の出席率55・75％を69・27％に修正します。

◇**ニコニコ発表**
坂下幸夫財務委員

ニコニコ発表／坂下財務委員

◇**会長挨拶**　山口　覚会長

会長挨拶／山口　覚会長

＊先週の移動例会は、夏日の中、本格中華「海苑」にて観桜会を開催致しました。早咲きの桜は満開で、ソメイヨシノは5分咲きで「花見」と「古典落語」の鑑賞の夕べになりました。85名のご参加を得て会員間、家族間の親睦が図れました。親睦・家族委員会の皆様に深く感謝を申し上げます。

さて、観桜会の当日は、ミャンマー中部で発生したマグニチュード7・7の地震は、タイ王国でも影響が出る大規模なものでした。

翌日、浄水機設置でお世話に成りましたノンケームロータリークラブのアン会長とトーマスさんにお見舞いの連絡をさせて頂きました。3月10日に浄水機設置事業でバンコクを訪問した際、空港に迎えに来て頂いた観光ガイド「ナナさん」、50代の女性に「タイ王国では、地震があるのでしょうか？」とまず聞きました。ナナさんから「バンコク郊外に住んでいますが、生まれて今まで地震を経験したことがありません。」との回答でした。タイ王国の大きく倒壊した建物は、ミャンマーに近いラッパオと言う地区で、大きな影響を受けたとの事です。

29日（土）は、ロータリークラブのアン会長とトーマスさんに連絡をした時は、地区大会の二日目でバンコクより更に遠方のパタヤビーチで開催されていました。地区大会では、舞台で「アラビアンナイト」の様な民族服装でベリーダンスの様な民族ダンスをして楽しみながら食事し、地区大会が開催されていました。この様な大災害が発生したら日本では、地区大会は中止になると思います。トーマスさん曰く、東南アジアの方々は、南国の国民性で細かいことは、全く気にせず暮らしていて家が無くなれば、仕方がなく木陰で過ごすという様な感覚との事です。

3月31日、南海トラフ巨大地震の被害想定報告書が発表されましたが、いつ発生するか判らない自然災害に日頃私たちは、訓練と備えが必要なことを実感しました。

◇**幹事報告**　塩野明幹事

幹事報告／塩野　明幹事

＊本日、例会終了後に全員協議会を開催しますので、お帰りにならずにお残りください。

＊各テーブルには、ガバナー月信4月号の、村内道昌会員の訃報と会員数ページとの両面コピー、タイへの浄水器機贈呈のタウンニュース記事、5／9～10に開催のRI第3481（台湾）地区の地区大会のご案内を配付しました。

＊5／16は八王子カントリークラブで移動例会です。後日ご案内をお送りしますのでご返信をお願いします。

＊メールボックスには、ウィークリー第14号と、ロータリーの友4月号を配付しました。

◇**三祝**

＊**会員誕生祝**（順不同　会員敬称略）
大石和春、三浦眞一、田村肇、榊田義久、塩野明、北澤誠一、早川武志、秋山順子

＊**会員令夫人・御夫君誕生祝**
石井静子様、松島みどり様、井上恵美子様、松本明様

＊**結婚記念祝**（順不同　会員敬称略）
赤上晃、松島勝、佐々木章、萩原照久、塩野明、佐山隆一

◇**スピーカー紹介**
平沼北斗プログラム委員長
スピーカー　粕谷良会員
テーマ「イニシエーション・スピーチ」

◇**閉会点鐘**　山口覚会長

全員協議会
予納金に関する細則追加規定の改正承認、2025-26年度組織表承認

ニコニコボックス

●2025・4・4（金）

◆**山口会長**・粕谷良会員のイニシエーションスピーチ、宜しくお願い致します。

◇**塩野幹事**・今月、誕生月、結婚記念日のお祝いありがとうございます。

◆**三浦**・本日、誕生祝をいただきますので。

◇**樫﨑博**・粕谷会員の卓話楽しみです。

◇**大石**・今月、誕生日を迎えましたので。

◇**鈴木重春**・イニシエーションガンバッテ下さい。

◇**松島**・結婚記念日お花ありがとうございます。

◇**塚本**・粕谷会員のイニシエーションスピーチ楽しみにしています！

◇**橋本、立花、小松、樫﨑雅彦**・粕谷会員のイニシエーションスピーチ楽しみです。

◇**平沼**・本日のイニシエーションスピーチ粕谷会員宜しくお願いします。

◇**小川、吉森、峯尾**・粕谷さん、イニシエーションスピーチがんばって下さい。

◇**秋山、北澤誠一**・お誕生日のお祝いをいただきます。ありがとうございます。粕谷さんのイニシエーションスピーチを楽しみにしております。

◇**齋藤、松本**・粕谷会員、イニシエーションスピーチ頑張って下さい。楽しみです。

◇**髙橋由美子**・粕谷さん頑張って下さい。お誕生日のみなさまおめでとうございます！

◇**神保、久保朝陽、紺野、五十嵐、梅田**・粕谷会員、イニシエーションスピーチ楽しみにしております！

◇**井上**・粕谷会員のイニシエーションスピーチ楽しみにしています。観桜会では海苑のご利用をありがとうございます。

◇**粕谷**・イニシエーションスピーチとにかく頑張ります！

（順不同・会員敬称略）

第２回 山口年度

親睦ゴルフコンペ

4月9日（水）晴朗の中、八王子カントリークラブにおいて、第２回山口年度親睦ゴルフコンペが開催されました。19 名が参加し、優勝は橋本孝会員でした。おめでとうございます。

主な順位は下記の通りです。（10 位まで）

優勝	橋本　孝	6 位	関　和之
2 位	塚本達二	7 位	福田邦人
3 位	町田修一	8 位	五十嵐勝平
4 位	樫﨑　博	9 位	石森浩元
5 位	滝島徳久	10 位	峯尾光成

四月三祝

卯月（うづき）

誕生花　かすみ草
誕生石　ダイヤモンド

会員誕生祝

大石　和春	78	回
三浦　眞一	76	回
田村　肇	63	回
榊田　義久	58	回
塩野　明	54	回
北澤　誠一	54	回
早川　武志	52	回
秋山　順子	44	回

会員令夫人・ご夫君誕生祝

石井　静子様
松島みどり様
井上恵美子様
松本　明様

結婚記念祝

赤上　晃	49	回
松島　勝	42	回
佐々木　章	35	回
萩原　照久	28	回
塩野　明	28	回
佐山　隆一	27	回

（順不同　会員敬称略）

継続事業で今年６年目となるタイ王国・浄水器設置事業にクラブ会員11名で参加

３月の（水と衛生月間）に関する取り組みとして、国際ロータリー第3350地区のノンケームロータリークラブの提携により、浄水器設置を実施いたしました。この事業は第2750地区からの地区補助金が主な財源です。

今年の式典は2025年３月10日に開催いたしました。ワット・チャナ・ソンサーン学校（幼稚園から中学校244名、チャチュ―ンサオ県）ワット・ファスアン学校（幼稚園から中学校108名、チャチューンサオ県）の２校を見学に行き、心温まる歓迎を受けました。

ノンケーム区の周辺の学校は、劣悪な状態の土壌や古い水道管により石炭が水に混じった水質のため、白く濁った水を飲用や給食に使っていました。浄水器を導入することで、衛生的で安全かつ安心して飲用出来る水を次代を担う子ども達に提供することができました。

この事業は、生徒の喜ぶ顔と事業の達成感が味わえる国際奉仕だと思います。まだまだ持続してほしい事業なので、これまで未参加の会員も、機会があれば是非ご参加をお願いします。

国際奉仕委員長　松島　勝

卓話「沿線まるごとホテル」

東日本旅客鉄道株式会社地域共創部マネージャー
兼 沿線まるごと株式会社　取締役
会田 均氏

下にある絵が全てを物語っているんですけれども、こちらの方々は、青梅線の沿線住民の人たちです。私はこの沿線住民の人たちの笑顔をどうビジネスにできるかというところで取り組んでいます。

事業の舞台なんですけれども、東京都の一番端っこの奥多摩町というところで、JRの沿線でいきますと青梅線でございます。

この奥多摩町はもともと人口が1万5千人ほどいたんですけれども、日本でもかなり急激に過疎・高齢化が進んでいるエリアでございまして、現在は5千人を切っています。その人口減少に伴って当然、インフラの維持というところが難しくなってきているエリアで鉄道の乗降数も右肩下がりというような状況で、13ある駅のうち11が無人駅というエリアでございます。

この沿線まるごとホテルとは何ぞや、というところなんですけれども、JR東日本とかが大きなホテルを作るのではなくて、あるものを生かすというテーマでやらせていただいておりまして、無人駅をホテルのフロントにして空き家がホテルの客室に、地域の住民はホテルのキャストというような形で地域全体でおもてなしをしていくということと、あるものを生かす、身近なものを愛するというテーマです。

もともと私はJRの社員でもあったので、青梅線の維持をするために、最初はイベントを地域の人たちとたくさんやってたんですけども、イベントだけですと一過性で、1万人が来て1回で終わってしまうというところがありましたので、私は同じ1万人だったら100人が100回来てくれるような沿線集落を目指したいというところでこのプロジェクトを立ち上げさせていただきました。

会社のほうも沿線まるごと株式会社というのを奥多摩町に設立しまして、無人駅の中に本社登記をさせていただいておりまして、おそらく日本で無人駅に本社を登記しているのはこの会社が初めてかなというところでございます。JR東日本と全国で地方コンサルをやっている「さとゆめ」という会社の共同出資会社をこの地元に作りまして、私は取締役をさせていただいている、というようなところでございます。

沿線まるごとホテルの基本構造は、ホテルのフロントが駅になり、ホテルの客室が空き家になります。その間のフロントから客室の間の田舎の小道はホテルの廊下という形で、地域全体できれいにしていこうというところで、地域の皆様と道をきれいにしたり川をきれいにしたりというような活動もしています。また、鉄道の方はホテルのエレベーターです、というような形を表現させていただいておりまして、ホテルって、レストランフロアとか温泉フロアとか、会議室フロアみたいに、フロアごとに色があるんですけれども、それを横に倒していただいて、駅ごとに我々はこの物語と色を作っていくという、沿線を一つのホテルに見立てて事業を行っております。お客さまに提供しているコンテンツとしますと、お客さまはあえて秘境の無人駅に降り立っていただいてチェックインをしていただきます。その後は地元のおじいちゃんであったり、住民の人たちが自分たちの集落をホッピングツアーという形で、海外ではアイランドホッピングという島巡りが流行っているんですけれども、それの集落版という形で自分たちの集落を案内してくれる。ガイドブックには載っていないような自分たちの文化であったり、歴史をご案内していただく、その後は沿線の食材をふんだんに使った「ガストロノミー」というコース料理を食べていただいて最後はその土地の衣食住が集まった公民館に泊まっていただいて、まさにこの土地の村の一人になるような体験を我々は提供させていただいております。最近、メディアにようやくこの沿線まるごとホテルというのが出始めたんですけれども、やはりこれまでに結構時間はかかっておりまして、一番最初は2021年の2月でコロナ禍の緊急事態宣言下からこのプロジェクトをスタートさせております。当時はさらに、東京都で一番乗降が少ない白丸駅という駅で1日10人弱ぐらいしかおりない駅があるんですけれども、最悪な状況の中、最悪な駅からスタートさせていただきました。この時、コロナ禍のホテルの稼働率は世の中3割ぐらいだったんですけれども、稼働率100%というようなところであったり、客単価で3万円をいただいていたんですけれども、お客様の満足度100%という評価をいただいたりしています。その翌年も緊急事態宣言下はまだ続いていたんですけれども、駅を変えて奥多摩駅から始まる1泊2日のツアーを実施させていただいたところ、こちらの方も稼働率80%以上というようなところでございました。また、奥多摩のエリアはある意味交通空白地帯で、バスやタクシーが1日に数本しかないような状況ですが、あえて不便な移動を楽しもうというところで逆転の発想で、モビリティツーリズムの日帰りのようなものも実施しましたところ、こちらの方も稼働率70%を超えるような結果が得

られました。さらに、事業だけではなくていろいろ地域のためになることにも取り組んでおりまして、無人駅に「ラボ」という地域の人たちが集まれる拠点を作っていったりとか、沿線の地元の三酒造さんと連携して酒列車を走らせたりとか、この奥多摩、青梅エリアは小学校から電車通学になるので、沿線の幼稚園・保育園と連携して幼稚園のうちから電車に乗る練習を一緒にしたりとか、子どもたちが描いた絵を電車とか駅に貼ってこの土地の暮らしみたいなところを表現させていただいて、いろいろこの４年ぐらいかかって今に至るというところでこの取り組みを続けさせていただいておりました。他は新しい技術をあえて秘境から発信していこうということで、電動トゥクトゥク（コンセント充電で走る３人乗りの車）を我々の方で用意をしたり、電動スポーツバイクを用意して地域全体を回遊できるような仕組みと、環境に優しいモビリティを用意をさせていただいて、地域全体をお客様に巡っていただいて、お金を落としてもらうような仕組みも整えております。こういうことをいろいろ３、４年やってきたら、昨年Japan Tourism Awards で大賞をいただきました。また学生が選ぶアワード賞というところのW受賞もいただきまして、国のほうからも評価をいただきました。メディアにも多く取り上げていただいて、だんだんと認知されてきました。その他は、地元の商工会や地元の住民の人たちと一緒に対話をしていったという取り組みをやっておりました。また昨年はいろいろ表彰をいただきまして、フォーブスさんであったり、日経クロストレンドさんであったり、ニューズウィークさんなどで各賞をいただきまして、今では世界にこのモデルを持っていってほしい、世界の先進国も過疎・高齢化というのは非常に進んでいるので、このモデルをなんとかジャパンモデルとして作っていってほしいという期待をいただきながら表彰をいただいております。まさにこういうメディアの人たちに取り上げていただくと、地域のおじいちゃんおばあちゃんが自分たちの育った地域に光が当たるということで非常に喜んでくれてます。

本当に地元の多くの人たちがこのプロジェクトに参画をいただいております。自治体では、奥多摩町だけではなくて、隣の青梅市であったり、山梨県の丹波山村、小菅村というような形で、多摩川の源流地域の４自治体にまたがって各市町村長さんが応援をしてくれたり、地元の事業者さん20社以上であったり、地元の住民の人たち30名以上など、いろいろな形でボランティアであったり、業務委託であったりアルバイトであったりというような形で、このプロジェクトに参画をいただいております。今まさに我々が取り組んでいるのはこの沿線を一つのホテルにしていくというところでありまして、駅ごとにいろいろな地域のコンテンツホルダーだったり、魅力的な技術を持っている事業者やお店がたくさんあります。ただこれまでは点で皆さんバラバラでやっていましたが、それを鉄道という線にしてつなげて、この沿線まるごと会社が面にしているところでございます。

例えばなんですけれども、青梅から４つ先の二俣尾という駅のところで、今日は川下りをしたら、明日はその２つ先の駅の沢井で酒蔵見学をして、来週は奥多摩の隣でわさび田ツアーをしようみたいな形で、お客様が駅を変えて何度も訪れてくれるような仕組みを地域の皆様と一緒になって作っています。今まさにこれを展開していますが、実はこのプロジェクトが、多くの自治体からお声掛けをいただいておりまして、我々は第２沿線、第３沿線に着手をし始めています。千葉の方であったり、長野の方であったり、というようなところとかを今着手をし始めているんですけれども、将来的には30地域でこのような地域丸ごとプロジェクトみたいなところを実現できると、過疎・高齢化であったり、地方創生という事業が少しでも変わるんじゃないか、我々が改善に向けて寄与できるんじゃないかと思っています。

１年前の５月に多摩川とその上を走る青梅線の間の限界集落を丸ごとホテルに変えています。昨年５月に、築１３０年の古民家を改修して、レストランとサウナをオープンさせていただいております。開業日には奥多摩町長だったり、青梅市長も駆けつけていただきました。もともと奥多摩地域はわさびで栄えていたり、林業で栄えていたりする地域だったので、庭の方にわさび田を再現したりとか、サウナは奥多摩の林業を十分に感じてもらうように薪サウナを整えさせていただいておりまして、本当に自然と一体となって整っていただく、というようなところと木を感じてもらうというようなサウナを提供させていただいております。開業して10ヶ月ぐらいなんですけれども、５０００人以上のお客様が新たにこの限界集落に来てご利用いただいております。また、いろいろ視察とかも含めると、１万人ぐらいの人たちがこの地域に10ヶ月で訪れてリピーターの方々も来ていただいたりとか外国人の方々も増えてきているというような状況でございます。

宣伝なんですけれども、今までは期間限定で宿泊ツーリズムをやっていたんですけれども同じエリアに宿泊施設を５月25日に開業予定でございます。実はまだ情報をオープンしていないんですけれども、既に１５０名ほどのご予約をいただいています。地域の人たちとこの限界集落を変えてきたという、本当にいろんな人たちがいろんな形で携わっていただいているエリアでございます。今の課題は空き家物件の方は押えているのですけれども、働く人がいないというところであったり、古民家を改修するお金がなかったりというところがあったりするので、そこをぜひ皆様の知見もいただきながらやっていきたいと思います。また、八王子からの送客みたいなところ、八王子からの流動みたいなところは、本当に非常に強い思いを持っていますので、地域間連携というか、八王子と奥多摩を拠点にしていきたいと思っておりますので、ぜひ皆様にもお越しいただきたいなと思っています。私もご案内させていただきますので、奥多摩エリアに来ていただいて、何か協業ができるようなことがないかというところを、一緒に打ち合わせをできたらいいなと思います。

地域のおじいちゃん、おばあちゃんが自分たちの畑で採れた野菜を持ってきてくれて大変助かったり、この前は77歳のおばあちゃんを雇用させていただいて、これまで税金をもらう側から払う形になったというようなこともありました。

いろんな人たちが参画できるような形をとっているので、地域丸ごと、人丸ごとというところをこれからも続けていきたいと思いますので、ぜひ応援の方、よろしくお願いいたします。

例会報告

第2813回●2025・4・11（金）

◇**司会**　田村肇会場監督
◇**開会点鐘**　山口　覚会長
◇**Rソング**　我らの生業
ソングリーダー：松村光会員
◇**お客様のご紹介**
東日本旅客鉄道（株）地域共創部マネージャー兼沿線まるごと（株）取締役会田均様
東京小金井さくらRC前田稔会長、土屋健親睦委員長、真野文恵会員、鴨下敏明会員
◇**食事と交歓**　和食
◇**出席報告**
礒間正裕出席副委員長
会員118名中67名出席。出席率59・82％。前々回3月28日の出席率64・29％を75・00％に修正します。
◇**ニコニコ発表**
山本俊明財務委員長
◇**会長挨拶**　山口　覚会長
＊今週水曜日は、自クラブの第2回親睦ゴルフコンペが開催されました。気温22℃、快晴のベストコンディションでした。ご参加頂きました会員の皆様に感謝申し上げます。
＊「ロータリーの友」4月号をお読みに成りましたでしょうか？一冊275円で、ロータリアンにはこれを購読する義務があります。そして、この雑誌には、ロータリーに関係する情報がいっぱい詰まっています。特に5年未満の会員には、「ロータリーとは？」のヒントが沢山あります。そのロータリーの友の4月号は、「環境月間」で防災が特集されておりました。「日本とイタリアの避難所設営と運営の違い」が比較されていました。
以前、テレビでもイタリアの避難所の設営から運営までを放送しておりました。
日本とイタリアの大きな違いを三つ上げてみたいと思います。一つ目は、「目指せ！防災のTKB48」。災害多発国であるイタリアは、国家が主導して避難所のトイレ、キッチン、ベッドを24時間～48時間以内で完成し、運営へ移行するシステムが確立されています。トイレは、コンテナ型でシャワー、洗濯機、乾燥機、エアコン、電灯付きです。台所は、キッチンカーでプロのシェフが暖かい食事やワイン、生野菜も提供され、家族単位で丈夫なテントと人数分のベッドが用意され、プライバシーが保護されます。二つ目は、行政の役割。内務省内に市民保護庁があり、常時800人の職員と全国に4,000のボランティア団体代表が同じフロアーでモニタリングをしている。災害発生後、30分以内に対策会議、2時間後に支援トラック出発、12時間以内にトイレ、食事、テントの提供がされる。三つ目は、一番の特徴ですが、避難所の運営は、市町村の職員は、関与しない。何故ならば職員自身の自宅も被災をしているからです。災害支援者は、9割がボランティア団体に登録した「プロ職人の支援」の方々です。日本は、イタリアに学ぶことが必要と思いました。
＊本日の卓話は、会田均様であります。テレビで放送もされました奥多摩の沿線全体をホテルに見立てる地域活性化プロジェクトです。「沿線まるごとホテル」は、ニューズウィーク日本版SDGsアワード「最優秀賞」を受賞し、過疎化と空き家の対策に貢献しております。本日の卓話を楽しみにしております。
◇**幹事報告**　塩野　明幹事
＊3／9に開催したダイアログ・イン・ザ・ダークの体験事業の記事がタウンニュースに掲載されました。テーブルに配布しておりますのでご一読ください。
＊地区より青少年交換プログラムについてご案内が届きました。ご興味のある方は事務局までご連絡をお願いします。
◇**委員会報告**
小川妙子親睦・家族副委員長
◇**スピーカー紹介**
小澤裕プログラム委員
スピーカー
東日本旅客鉄道（株）地域共創部マネージャー兼沿線まるごと（株）取締役　会田 均氏
テーマ「沿線まるごとホテル」
謝礼贈呈
◇**閉会点鐘**　山口　覚会長

ニコニコボックス

●2025・4・11（金）

◆**山口会長**・東京小金井さくらRC会長前田稔様を始め会員の皆様、ようこそご来会有難うございます。卓話の会田均様、宜しくお願い致します。
◇**塩野幹事**・先日の親睦ゴルフコンペで橋本さんと平沼さんを抜いてドラコンを取ることができました。
◆**東京小金井さくらRC4名**・当クラブのメーキャップ週間でお邪魔しました。どうぞ宜しくお願い致します。
◆**橋本**・親睦ゴルフコンペで優勝させていただきました。
◇**田辺**・昨日のゴルフコンペ当日に欠席して申し訳ありません。
◇**平沼、小澤**・会田様、本日の卓話宜しくお願いします。

（順不同・会員敬称略）

60周年実行委員会だより

NO.2

第２回実行委員会が４月４日（金）開催された。
全体の事業予算が約 1,400 万円と提示され、これに基づき各部会が担当する事業内容を次回期日までに検討することになった。
式典部会では、講師の選出や祝賀会の費用見積りなどが検討され、事業部会では事業内容を再度検討、記念誌部会では従前の紙ベースの記念誌を式典後に発行、総務部会では招待者の範囲や予算について検討し、各部会の担当業務のタイムスケジュールや案内状の作成などの検討をする旨が報告された。
次回実行委員会は６月６日（金）例会終了後に開催する。

式典及び祝賀会
令和8年5月23日（土）

東京八王子西ロータリークラブ
〒192-0083　東京都八王子市旭町 14 番 1 号
京王プラザホテル八王子 8F
TEL.042-649-3751　FAX.042-649-3753
https://www.hachioji-west-rc.org
会長　山口　覚　　幹事　塩野　明
広報委員会　諸星宗幸　浅川立憲　原　巌　原 啓一郎
天神敏博　佐山隆一